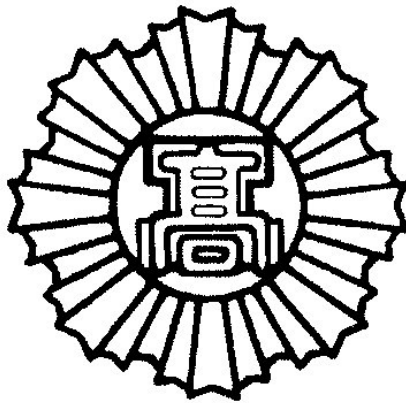


平成 28 年度
学校評価結果報告書
(中間評価)



広島県立広島工業高等学校

目 次

- 1 様式3【平成28年度自己評価シート（中間評価）】・・・ 1
- 2 様式4【平成28年度自己評価シート（中間評価まとめ）】・・・ 7
- 3 様式7【平成28年度学校関係者評価シート（中間評価）】・・・ 10

平成28年度自己評価シート(中間評価)

校番	81	学校名	広島工業高等学校	校長氏名	唐立 慎二	全日制	本校
----	----	-----	----------	------	-------	-----	----

学校経営目標							
達成目標	本年度行動計画	目標値	実績値	評価	理由	担当部等	
1 ものづくり人材の育成							
各種資格・検定試験の受験者数・合格率の向上を図り、ジュニアマイスター認定者数を増やす。	・資格・検定試験に対して計画的な補習計画を立てる。始業前の時間を活用し、資格取得強化月間を設ける。	認定者数 52人	認定者数 23人	B	(教育研究部) ジュニアマイスター前期 ゴールド10名 シルバー13名 計23名 (1学年) 入学後、各学科から資格取得の大切さを丁寧に説明し啓発した。 (2学年) 資格・検定の日程を一覧にして伝えた。 (3学年) ジュニアマイスターは前期21人、合計35人認定。	教育研究部 全学年会	
ものづくりコンテストでの入賞・優勝を目指す。	・各科、ジュニアマイスター認定についての啓蒙と各種技能競技大会への取組みを推進し、上位入賞者を目指す。	中国大会 7 全国大会 5	中国大会 4 全国大会 4	A	(機械科) 若年者ものづくり競技会旋盤作業銅賞(3位)受賞、フライス盤作業には初参加した。高校生ものづくりコンテスト中国地区大会旋盤作業部門2位に入賞した。	工業科	
				C	(電気科) 電気工事・電子回路組立の2部門に出場したが中国大会には出場できなかった。		
				A	(建築科) 高校生ものづくりコンテスト中国大会木材加工部門で、優勝し、全国大会出場を決めた。 若年者ものづくり競技大会(職種建築大工)に出場し、銀賞(2位)を受賞した。		
				B	(土木科) 高校生ものづくりコンテスト中国大会測量部門で優勝し、全国大会出場を決めた。		
工業分野の有識者と連携し、実践的な知識・技術・技能を身に付ける。	・地域の企業や大学の有識者を講師として、先進的かつ実践的な知識・技術を身に付けられる授業を実施する。	7回	4回	B	SET(Super Engineering Teacher)や熟練技能者による技能向上のための授業を実施した。	各学科	
各学科が推奨する工業分野の資格を取得する。 機 械 科:技能検定(普通	・各学科の専門内容の定着に必要な資格を取得させるために、学科が計画的に補習等指導を実施する。	取得者数 103人	取得者数 46人	B	(機械科) 前期技能検定の状況 3級技能士34人 2級技能士12人 総計46人	工業科	

旋盤2・3級, 鑄造2・3級, フライス盤作業2・3級, 機械検査作業2・3級, 機械プラント製図2・3級) 電気科: 第1種・第2種電気工事士 建築科: 建築施工管理士2級+技能検定(左官2・3級, とび2・3級, 建築大工2・3級) 土木科: 2級土木施工管理技術検定+測量士, 測量士補 化学工学科: 危険物取扱者	取得者数 87人	取得者数 71人	A	(電気科) 第2種上期受験結果 71人合格(受検者 81人)で, ある程度成果を得た。現在, 第1種(受験 57人)ならびに第2種下期(受験 6人)について補習を行い指導中である。
	取得者数 48人	取得者数 32人	B	(建築科) 技能検定において, 建築大工3級10人, とび3級6人, 左官3級16人, 前期で合計32人取得した。
	取得者数 5人	取得者数 5人	A	(土木科) 測量士補5人(受検 10人)合格した。
	取得者数 5人	取得者数 1人	C	(化学工学科) 危険物取扱者甲種 1人合格

《各種資格・検定試験の受験者数・合格率の向上を図り, ジュニアマイスター認定者数を52名以上とする》

【評価結果の分析】

(1) 成果

- ジュニアマイスター認定者数は, 本年度前期で23名となり, 昨年度(15名)より増加した。
- 4月に前期分, 8月に後期分, 各学科において取得できる資格・検定の試験日程一覧表を作成し案内した。
- 学年通信では, その一覧表や各資格・検定の受験者数を毎月紹介し, 生徒(保護者)に受験意欲の喚起を図った。

(2) 課題

- ジュニアマイスター認定に向け, 各自の意識をさらに高め, クラス・学年で機運を高めていかなければならない。
- ジュニアマイスター取得者数は学科によって差が大きくなった。

【今後の改善方策】

- 1年生は, 科全員受験である計算技術検定, 情報技術検定等の受験に向けて, 学年全体で啓発活動に取り組む。
- 2学年は, 全員受験する漢字検定(10/21)に向け, 学年全体で取り組む。
- 学年では各生徒の合格状況やジュニアマイスターの得点を把握し, 生徒に伝えることにより, ジュニアマイスター認定を啓発する。
- 取得者数の少ない学科については, SHRや授業を通して卒業までに資格取得に励むよう啓発していく。

《ものづくりコンテストでの入賞・優勝を目指す》

【評価結果の分析】

(1) 成果

- 若年者ものづくり競技会 職種建築大工に中国地区代表として参加し, 銀賞(2位)を受賞した。
- 若年者ものづくり競技会 職種旋盤作業に中国地区代表として参加し, 参加者32名中, 銅賞(3位)を受賞した。フライス盤作業には初参加した。
- 高校生ものづくりコンテスト 測量部門は3年連続, そして木材加工部門は2年連続, 中国地区大会で優勝し, 全国大会(11月)に出場する。

(2) 課題

- 高校生ものづくりコンテストについては, 4部門中国地区大会に出場したが, その中で2部門しか優勝できず, 全国大会出場を逃した。
- 中国大会や全国大会へ出場するには, レベルの高い徹底した指導体制が必要であるが, 学科の全教職員が指導できないのが現状である。

【今後の改善方策】

- 出場する選手の技術・技能向上が進んでおり, 簡単に上位に入ることが難しくなっている。安全作業を徹底しながら, 加工及び作業精度を上げるなど, すべての面で質の高い練習を実施する。
- 社会人外部講師であるSETを活用して, 生徒とともに教職員も教授いただく。

《実践的な知識・技術・技能を身に付ける》

【評価結果の分析】

(1) 成果

- SETIには, 授業では専門の技能向上に向け, 放課後には広島県版技能検定, 国家技能検定対策について, 生徒に指導をしていただいた。
- SET, 工業組合・企業の熟練技能者の指導により, 生徒の知識や技術・技能が向上し, 資格・検定取得につながった。

○学科によっては、SETを講師として教職員講習会を実施いただき、教職員が技能検定を合格した。

(2)課題

○生徒の技能向上には、SET等だけに指導を任せるのではなく、本来指導する教職員自身がスキルアップしていく必要がある。

【今後の改善方策】

- 教職員が、SET、工業組合・企業の熟練技能者が生徒を指導している授業や放課後指導の様子を参観し、自身の技能向上に資する。
- SET、工業組合・企業の熟練技能者を講師として、教職員技能向上研修会を実施いただき、教職員への技能の伝承に取り組む。

《各学科が推奨する工業分野の資格を取得する》

【評価結果の分析】

(1)成果

学 科	学科が推奨し合格した資格・検定	合格人数
機械科	2級技能士旋盤作業 (6/6), 2級技能士フライス盤作業(2/2), 2級技能士鋳造作業 (4/4), 3級技能士旋盤作業(4/4), 3級技能士フライス盤(6/7), 3級技能士鋳造(19/20), 3級技能士機械検査(5/9)	46人
電気科	第2種電気工事士(上期結果 71人/81人), 第1種電気工事士(筆記合格結果 30人(自己採点)/57人) 第2種下期(受験 6人)	71人
建築科	建築大工3級 10人(受験 10人), とび3級6人(受験6人), 左官3級16人(受験 16人)	32人
土木科	測量士補 5人(受験 10人)	5人
化学工学科	危険物取扱者 甲種 1人(受験1人), 乙種 0人(受験8人)	1人

(2)課題

- この合格率・合格者の増加は、教職員の指導があつての成果であるので、さらなる教職員の指導力向上が必要である。
- 資格・検定取得が継続的な取組みになるよう、引き続き、生徒への技能検定取得のための指導及び啓発が必要である。

【今後の改善方策】

- 教職員は、技能検定等に係るセミナーに参加し、広島マイスターや熟練技能者の卓越した技術・技能を学びながら、指導力の向上を図る。
- 生徒に対し、授業等で技能の向上の必要性や技能検定の優位性を積極的に伝え、意識を啓発していく。

2 選ばれる学校づくり						
入学希望者の増加を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・夏期休業中にオープンスクールを実施する。 ・本校の長所をアピールする資料を作成し、中学校訪問を複数回行う。また、中学校への出前授業やテクノボランティアも実施する。 ・学校行事をはじめとする教育活動を HP へ掲載する。又各科毎学期 1 回以上更新する。 	入学者選抜 I・II 平均倍率 124 以上	—	A	(総務部) オープンスクールを計画どおり4回実施した。中学校訪問は2回実施した。 (教育研究部) HPの更新は各科1回以上実施した。クラブ活動等も適宜更新した。	総務部 教育研究部
	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ紹介・オリエンテーション等において、クラブ加入を呼びかける。 ・クラブの成績や結果を年1回以上 HP へ掲載する。 	運動部県大会入賞 45 以上 運動部中国大会出場 11 以上 運動部全国大会出場 6 以上	運動部県大会入賞 61 運動部中国大会出場 11 運動部全国大会出場 7	A	(総務部) 県大会入賞数は中間報告時点で大きく昨年を上回った。中国大会・全国大会の出場者数も順調である。	
		加入率 93%以上	加入率 91.5%	B	(総務部) 部活動加入率は昨年度より若干下回っているが、高水準は維持している。	

《入学希望者の増加を目指す》

＜中学生へのPR活動の実施＞

【評価結果の分析】

(1) 成果

- オープンスクールの参加申し込みについて、中学校とのやり取りをメールで行ったため、郵送よりも迅速に行うことができた。
- オープンスクールに参加した中学生のオープンスクールの内容に対する肯定度は 98.4%であった。

(2) 課題

○オープンスクールの学校紹介ビデオの内容は毎年若干の変更を加えているが、映像が古い箇所もあり、最新の内容にする必要が出てきている。本年度は、インターハイや全国総合文化祭など行事等の都合で余儀なく昨年度と異なる日程で実施した。生徒参加申込者は 628 名あり、ほぼ昨年度(650 人)並みであったが、当日部活動の大会や体調不良で欠席者が多く最終的に 598 名の参加にとどまった。

【今後の改善方策】

- オープンスクールの学校紹介ビデオについては、ビデオを新たに撮るなど、今年度から取り組めるところは取り組んでいく。オープンスクール全体の流れをスムーズに進めるために、内容や運営方法を今後検討していく。
- 来年度オープンスクールに向け、中学校の行事等調査し、最適な日程で計画する。

＜クラブの活性化＞

【評価結果の分析】

(1) 成果

○部活動加入率は1年生97.8%、2年生94.3%であり、目標値を上回っている。特に1年生はクラブに加入していない者は、10人にも満たないなど、ほとんどの1年生はいずれかのクラブに加入している状況である。

(2) 課題

○部活動には加入はしているが、活動していない生徒もいると考えられ、そういった生徒をどうクラブに位置づけるかが問題である。

【今後の改善方策】

- 体育系・文科系の部活動に加入しない場合は工業系に加入することになっている。1年生ではこのことが浸透しているが、2年生、3年生ではこのことが徹底できていない実態がある。まず、教職員に周知し、生徒にクラブ加入を促す。
- 部活動を更に活性化するため、活動が常でない生徒に対しては部活動顧問から声掛け等の指導を行う。

3 教職員の指導力向上の推進						
確かな学力を身に付けさせる授業を実施する。	・生徒による授業評価アンケートを7月と12月に実施して成果を検証する。	授業評価アンケート肯定的意見割合70%以上	—	C	授業評価アンケート案が完成したが、質問項目について再検討する必要がある。	教務部 教育研究部 教科・学科
主体的な学びを取り入れた授業を推進する。	・アクティブラーニングとしてグループ学習やペア学習や、ICTを活用した学習活動を取り入れるなど、主体的な学びを促す授業を実施する。	主体的な学びを促す授業回数85%以上	80%以上	C	教職員は考査問題から主体的な学びを促す授業を意識していることが伺えるが、「主体的な学び」に対する理解にバラつきがある。	
	・定期考査において、思考力を問う問題を10%～15%取り入れる。	定期考査に思考力を問う問題を取り入れた科目の割合85%以上	80%以上	B	今年度これまで実施した定期考査には、ほぼすべて思考力を問う問題を取り入れている。	

《確かな学力を身に付けさせる授業を実施する》

【評価結果の分析】

(1) 成果

○先進校が実施した授業評価アンケートを調査・研究し、アンケート案が完成した段階である。

(2)課題

○アンケート案が、目標の達成度が評価できる質問項目になっているか、また、調査や集約の方法について最適な方法を再検討する必要がある。

【今後の改善方策】

○アンケート案が完成した段階で、調査方法や集約について検討中である。教育研究部と連携しながら、早急に授業評価アンケートを確定し、早々に調査ができるよう準備を進めたい。

《主体的な学びを取り入れた授業を推進する》

【評価結果の分析】

(1) 成果

○今年度これまで実施した定期考査には、ほぼすべて思考力を問う問題を取り入れている。この結果より、教職員は、主体的な学びを促す授業を意識していることが伺える。

○1学期、“主体的な学びを促す授業づくり”をテーマに公開研究授業を実施し、指導教諭に指導いただき、授業力向上に取り組んだ。

(2) 課題

○定期考査においてほぼすべての科目で思考力を問う問題を取り入れていることから、主体的な学びを促す授業を意識していることが伺える。しかし、主体的な学びを推進するにあたり、生徒にどのような力をつけさせるのか、そのためにはどのような学習活動が必要なのか、学校全体でどう取り組んでいくのか、これらが教職員間で共通理解ができていない。

【今後の改善方策】

○実態として、目指すべき授業が十分に実施できていないと考えられ、今後について、研修等を重ねながら実践していく。

○2学期にも公開研究週間と公開研究授業を展開する。指導教諭による、実践的な指導を伺い各先生方の授業改善に活かす。

4 安全・安心・清潔な学校づくり						
安全で清潔な学習環境をつくる。	・全校生徒による美化活動を実施し、年間10回以上の活動を行なう。	大掃除 実施数 12回	6回	A	計画通り実施していて、常に校内美化は保たれている。	保健厚生部
	・入学時より規律指導を徹底する。 ・学校生活を中心とした生活習慣を確立させ、授業規律に重点をおいた指導を実施する。	年間1日 平均遅刻 件数 1.33 (人/日) 以下	1.34 (人/日)	B	(生徒指導部) 全体的に浸透してきているが、まだ意識が低い部分がある。 (1学年会) 集団宿泊訓練を通して高校生活のあり方や規律を指導した。 (2学年会) 9月末までの遅刻数は46人と、目標に換算すると、1.44と昨年並みではあるが、目標には到達していない。 (3学年会) 9月末まで、0.32(人/日)人であった。	生徒指導部 全学年会

《安全で清潔な学習環境をつくる》

＜美化活動の徹底＞

【評価結果の分析】

(1) 成果

○校内の美化は常に保たれており、オープンスクールのアンケート結果でも、“校内がきれいである”と肯定的な意見が多かった。

(2) 課題

○継続して、学校の環境・衛生を良くするため、校内の美化を保つ必要がある。

【今後の改善方策】

○年度後半についても、計画どおり、校内美化活動を丁寧かつ組織的に実施する。

＜基本的な生活習慣の確立＞

【評価結果の分析】

(1) 成果

- 登校遅刻に関して、1日あたりの件数は、1.34 件(人/日)と、ほぼ目標の値と同じとなった。年々減少傾向にあるが、ここまでの間、大きく減少していない。特定のクラス、生徒で複数の「通院」、「体調不良」、「寝坊」という理由での登校遅刻があり減少できていない。
- 授業遅刻に関して、前年度比+175 件と急増した。登校遅刻同様減少傾向にあったが、トイレ、売店、不注意等で移動教室へ集団で遅れるというケースが増加した原因の1つでもある。
- 問題行動に関して、前年度比+2件増加した。「これぐらいなら大丈夫」という軽率な言動があり、問題行動に発展している。
- 2学年は、入学当初から、正門通過 8:20、教室入室 8:25 を掲げて取り組んだ。クラス掲示や学年通信などで投げかけた。
- 3学年は、9月末まで1日あたり0.32 人(授業日96日で31回)であった。

(2) 課題

- 一部で、登校遅刻や授業遅刻という生活習慣や授業規律という部分を軽視している部分があり、生徒に規範意識を醸成させる必要がある。
- 登校遅刻及び授業遅刻の減少、遅刻ゼロ日を増加させる。
- 2学年は、9月末までの遅刻数:46 人のうち、7・8・9月(38 日)の遅刻数が 26 人で、目標に換算すると、2.05(人/日)と増加した。
- 3学年は、体調不良による遅刻者が多い。

【今後の改善方策】

- 生徒の意識向上も必要だが、教員の意識向上も必要である。生活及び授業での規律指導を徹底する。
- 頭髮服装指導、校門指導、巡回指導等の徹底を図り、教職員の連携、情報の共有を行い組織的に指導していく。
- 生徒状況を的確に捉えるため、関係者(各学科・教科やクラブ顧問等)との連携や日常的な情報交換をさらに行い、情報を共有し、適切な指導に生かす。
- 時期やクラス・学年の状況に応じた注意喚起に加え、課題や望ましい方向をはっきりと伝える。また、進路探究をしっかりと進めるためにも、クラスを中心に前向きに活躍するよう指導する。
- 3学年は、体調不良による遅刻を減らすよう、社会人になるために必要な健康管理もおこなうよう今後も注意を促していく。

5 生徒の進路希望を実現						
就職希望者の内定率 100%、進学希望者の合格率 100%を達成し、3 学年生徒全員は、進路決定後に卒業する。	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年進路ガイダンスの充実を図る。 ・SPI 検査模擬試験を実施する。 ・学習状況調査を実施後、職員研修会を開き生徒の実力を把握して進路指導を実施する。 ・有識者や卒業生による進路講演会を実施する。 	就職試験一次合格率 95.0%	92.2%	B	(進路指導部・3学年会) 就職試験一次合格率は 92.2%となり、目標値に届かなかった。 公立大学に5名受検し、1名合格した。 (1学年会) 進路実現に向け LHR で4回の指導を行っている。学習状況調査の結果に基づき希望進路等について面談を実施した。 (2学年会) 進路探究について、積極的に促した。	進路指導部 全学年会
		国公立大学合格者数 1(人) 国公立大学受検者数 5(人)	1人 5人			

《就職希望者の内定率 100%、進学希望者の合格率 100%を達成する》

【評価結果の分析】

(1) 成果

- 就職希望者の内定率は 92.2%となり、高水準となった。
- 第1期(9月30日 採用試験)時点で、縁故・自己開拓・公務員・自営を除く就職希望者 193 名中、178 名の生徒が1回目の採用試験で内定した。
- 国公立大学対策として、基礎学力の定着指導、学科による専門性向上に係る指導、面接指導等により、公立大学に1名合格した。
- 進路探究について、進路LHRや進路希望調査を通して直接的に、一般常識テストや小テスト、学年通信等で間接的に促した。

(2) 課題

- 就職一次試験の不合格理由について、筆記試験と面接試験のどちらが主な原因なのか検討し、不合格生徒への取組みが必要である。
- 進路意識の低い生徒や、具体的な希望や展望を描くに至っていない生徒がいる。

【今後の改善方策】

- 第1期就職試験不合格生徒については、個別の面接指導、応募前見学、筆記試験対策の指導に取り組む。
- 国公立大学等進学者を対象に、引き続き、学力試験対策及び小論文、面接等の指導を徹底して行う。
- 進路探究に関する意識を高める情報提供や指導を学年全体で取り組むとともに、個別相談・指導等も実施する。

平成 28 年度自己評価シート(中間評価まとめ)

校番	81	学校名	広島工業高等学校	校長氏名	唐立慎二	全日制	本校
----	----	-----	----------	------	------	-----	----

1 評価結果の分析

《各種資格・検定試験の受験者数・合格率の向上を図り、ジュニアマイスター認定者数を 52 名以上とする》

- ジュニアマイスター認定者数は、本年度前期で 23 名となり、昨年度(15 名)より増加した。
- 4月に前期分、8月に後期分、各学科において取得できる資格・検定の試験日程一覧表を作成し案内した。
- 学年通信では、その一覧表や各資格・検定の受験者数を毎月紹介し、生徒(保護者)に受験意欲の喚起を図った。
- ジュニアマイスター認定に向け、各自の意識をさらに高め、クラス・学年で機運を高めていかなければならない。
- ジュニアマイスター取得者数は学科によって差が大きくなった。

《ものづくりコンテストでの入賞・優勝を目指す》

- 若年者ものづくり競技会 職種建築大工に中国地区代表として参加し、銀賞(2 位)を受賞した。
- 若年者ものづくり競技会 職種旋盤作業に中国地区代表として参加し参加者 32 名中、銅賞(3 位)を受賞した。フライス盤作業には初参加した。
- 高校生ものづくりコンテスト測量部門は3年連続、そして木材加工部門は2年連続、中国地区大会で優勝し、全国大会(11 月)に出場する。
- 高校生ものづくりコンテストについては、4部門中国地区大会に出場したが、その中で2部門しか優勝できず、全国大会出場を逃した。
- 中国大会や全国大会へ出場するには、レベルの高い徹底した指導体制が必要であるが、学科の全教職員が指導できないのが現状である。

《実践的な知識・技術・技能を身に付ける》

- SETIには、授業では専門の技能向上に向け、放課後には広島県版技能検定、国家技能検定対策について、生徒に指導をしていただいた。
- SET、工業組合・企業の熟練技能者の指導により、生徒の知識や技術・技能が向上し、資格・検定取得につながった。
- 学科によっては、SETを講師として教職員講習会を実施いただき、教職員が技能検定を合格した。
- 生徒の技能向上には、SET等だけに指導を任せるのではなく、本来指導する教職員自身がスキルアップしていくことが必要である。

《各学科が推奨する工業分野の資格を取得する》

- 学科推奨の資格・検定取得の啓発や指導に取り組んだ結果、機械科は 46 人、電気科が 71 人、建築科 32 人、土木科は 5 人、化学工学科は 1 人合格した。この合格率・合格者の増加は、教職員の指導があつての成果であるので、さらなる教職員の指導力向上が必要である。
- 資格・検定取得が継続的な取組みになるよう、引き続き、生徒への技能検定取得のため、さらなる指導及び啓発が必要である。

《入学希望者の増加を目指す》

＜中学生へのPR活動の実施＞

- オープンスクールの参加申し込みについて、中学校とのやり取りをメールで行ったため、郵送よりも迅速に行うことができた。
- オープンスクールに参加した中学生のオープンスクールの内容に対する肯定度は 98.4%であった。
- オープンスクールの学校紹介ビデオの内容は毎年若干の変更を加えているが、映像が古い箇所もあり、最新の内容にする必要が出てきている。本年度は、インターハイや全国総合文化祭など行事等の都合で余儀なく昨年度と異なる日程で実施した。生徒参加申込者は 628 名あり、ほぼ昨年度(650 人)並みであったが、当日部活動の大会や体調不良で欠席者が多く最終的に 598 名の参加にとどまった。

＜クラブの活性化＞

- 部活動加入率は1年生97.8%、2年生94.3%であり、目標値を上回っている。特に1年生はクラブに加入していない者は、10人にも満たないなど、ほとんどの1年生はいずれかのクラブに加入している状況である。
- 部活動には加入はしているが、活動していない生徒もいると考えられ、そういった生徒をどうクラブに位置づけるかが問題である。

《確かな学力を身に付けさせる授業を実施する》

- 先進校が実施した授業評価アンケートを調査・研究し、アンケート案が完成した段階である。
- アンケート案が目標の達成度が評価できる質問項目になっているか、また調査や集約の方法について最適な方法を再検討する必要がある。

《主体的な学びを取り入れた授業を推進する》

- 今年度これまで実施した定期考査には、ほぼすべて思考力を問う問題を取り入れている。この結果より、教職員は、主体的な学びを促す授業を意識していることが伺える。
- 1学期、“主体的な学びを促す授業づくり”をテーマに公開研究授業を実施し、指導教諭に指導いただき、授業力向上に取り組んだ。
- 定期考査においてほぼすべての科目で思考力を問う問題を取り入れていることから、主体的な学びを促す授業を意識していることが伺える。しかし、主体的な学びを推進するにあたり、生徒にどのような力をつけさせるのか、そのためにはどのような学習活動が必要なのか、学校全体でどう取り組んでいくのか、これらが教職員間で共通理解ができていない。

《安全で清潔な学習環境をつくる》

＜美化活動の徹底＞

- 校内の美化は常に保たれており、オープンスクールのアンケート結果でも、“校内がきれいである”と肯定的な意見が多かった。
- 継続して、学校の環境・衛生を良くするため、校内の美化を保つ必要がある。

＜基本的な生活習慣の確立＞

- 登校遅刻に関して、1日あたりの件数は、1.34件(人/日)と、ほぼ目標の値と同じとなった。年々減少傾向にあるが、ここまでの間、大きく減少していない。特定のクラス、生徒で複数の「通院」、「体調不良」、「寝坊」という理由での登校遅刻があり減少できていない。
- 授業遅刻に関して、前年度比+175件と急増した。登校遅刻同様減少傾向にあったが、トイレ、売店、不注意等で移動教室へ集団で遅れるというケースが増加した原因の1つでもある。
- 問題行動に関して、前年度比+2件増加した。「これぐらいなら大丈夫」という軽率な言動があり、問題行動に発展している。
- 2学年は、入学当初から、正門通過 8:20、教室入室 8:25 を掲げて取り組んだ。クラス掲示や学年通信などでも投げかけた。
- 3学年は、9月末まで1日あたり0.32人(授業日96日で31回)であった。
- 一部で、登校遅刻や授業遅刻という生活習慣や授業規律という部分を軽視している部分があり、生徒に規範意識を醸成させる必要がある。
- 登校遅刻及び授業遅刻の減少、遅刻ゼロ日を増加させる。
- 2学年は、9月末までの遅刻数:46人のうち、7・8・9月(38日)の遅刻数が26人で、目標に換算すると、2.05(人/日)と増加した。
- 3学年は、体調不良による遅刻者が多い。

＜就職希望者の内定率 100%、進学希望者の合格率 100%を達成する＞

- 就職希望者の内定率は92.2%となり、高水準となった。
- 第1期(9月30日採用試験)時点で縁故・自己開拓・公務員・自営を除く就職希望者193名中、178名の生徒が1回目の採用試験で内定した。
- 国公立大学対策として、基礎学力の定着指導、学科による専門性向上に係る指導、面接指導等により、公立大学に1名合格した。
- 進路探究について、進路LHRや進路希望調査を通して直接的に、一般常識テストや小テスト、学年通信等で間接的に促した。
- 就職一次試験の不合格理由について、筆記試験と面接試験のどちらが主な原因なのか検討し、不合格生徒への取組みが必要である。
- 進路意識の低い生徒や、具体的な希望や展望を描くに至っていない生徒がいる。

2 今後の改善方策

＜各種資格・検定試験の受験者数・合格率の向上を図り、ジュニアマイスター認定者数を52名以上とする＞

- 1年生は、科全員受験である計算技術検定、情報技術検定等の受験に向けて、学年全体で啓発活動に取り組む。
- 2学年は、全員受験する漢字検定(10/21)に向け、学年全体で取り組む。
- 学年では各生徒の合格状況やジュニアマイスターの得点を把握し、生徒に伝えることにより、ジュニアマイスター認定を啓発する。
- 取得者数の少ない学科については、SHRや授業を通して卒業までに資格取得に励むよう啓発していく。

＜ものづくりコンテストでの入賞・優勝を目指す＞

- 出場する選手の技術・技能向上が進んでおり、簡単に上位に入ることが難しくなっている。安全作業を徹底しながら、加工及び作業精度を上げるなど、すべての面で質の高い練習を実施する。
- 社会人外部講師であるSETを活用して、生徒とともに教職員も教授いただく。

＜実践的な知識・技術・技能を身に付ける＞

- 教職員が、SET、工業組合・企業の熟練技能者が生徒を指導している授業や放課後指導の様子を参観し、自身の技能向上に資する。
- SET、工業組合・企業の熟練技能者を講師として、教職員技能向上研修会を実施いただき、教職員への技能の伝承に取り組む。

＜各学科が推奨する工業分野の資格を取得する＞

- 教職員は、技能検定等に係るセミナーに参加し、広島マイスターや熟練技能者の卓越した技術・技能を学びながら、指導力の向上を図る。
- 生徒に対し、授業等で技能の向上の必要性や技能検定の優位性を積極的に伝え、意識を啓発していく。

＜入学希望者の増加を目指す＞

＜中学生へのPR活動の実施＞

- オープンスクールの学校紹介ビデオについては、ビデオを新たに撮るなど、今年度から取り組めるところは取り組んでいく。オープンスクール全体の流れをスムーズに進めるために、内容や運営方法を今後検討していく。
- 来年度オープンスクールに向け、中学校の行事等調査し、最適な日程で計画する。

＜クラブの活性化＞

- 体育系・文科系の部活動に加入しない場合は工業系に加入することになっている。1年生ではこのことが浸透しているが、2年生、3年生ではこのことが徹底できていない実態がある。まず、教職員に周知し、生徒にクラブ加入を促す。
- 部活動を更に活性化するため、活動が常でない生徒に対しては部活動顧問から声掛け等の指導を行う。

＜確かな学力を身に付けさせる授業を実施する＞

- アンケート案が完成した段階で完成したばかりで、調査方法や集約について検討中である。教育研究部と連携しながら、早急に授業評価アンケートを確定し、早々に調査ができるよう準備を進めたい。

＜主体的な学びを取り入れた授業を推進する＞

- 実態として、目指すべき授業が十分に実施できていないと考えられ、今後について、研修等を重ねながら実践していく。
- 2学期にも公開研究週間と公開研究授業を展開する。指導教諭による、実践的な指導を伺い各先生方の授業改善に活かす。

《安全で清潔な学習環境をつくる》

＜美化活動の徹底＞

○年度後半についても、計画どおり、校内美化活動を丁寧かつ組織的に実施する。

＜基本的な生活習慣の確立＞

○生徒の意識向上も必要だが、教員の意識向上も必要である。生活及び授業での規律指導を徹底する。

○頭髪服装指導、校門指導、巡回指導等の徹底を図り、教職員の連携、情報の共有を行い組織的に指導していく。

○生徒状況を的確に捉えるため、関係者（各学科・教科やクラブ顧問等）との連携や日常的な情報交換をさらに行い、情報を共有し、適切な指導に生かす。

○時期やクラス・学年の状況に応じた注意喚起に加え、課題や望ましい方向をはっきりと伝える。また、進路探究をしっかりと進めるためにも、クラスを中心に前向きに活躍するよう指導する。

○3学年は、体調不良による遅刻を減らすよう、社会人になるために必要な健康管理もおこなうよう今後も注意を促していく。

《就職希望者の内定率 100%、進学希望者の合格率 100%を達成する》

○第1期就職試験不合格生徒については、個別の面接指導、応募前見学、筆記試験対策の指導に取り組む。

○国公立大学等進学者を対象に、引き続き、学力試験対策及び小論文、面接等の指導を徹底して行う。

○進路探究に関する意識を高める情報提供や指導を学年全体で取り組むとともに、個別相談・指導等も実施する。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

学校関係者評価においては、目標設定、取組み、評価結果の分析、今後の改善方策等、概ね適切であると評価された。また、以下の内容についても、評価いただいた。

○生徒は、挨拶など、礼儀も規律も正しい。

○学校は、いつも、隅々まで清掃されており、きれいである。

しかし、次の達成目標について、御意見・御質問があり、それに対し、以下のとおり、改善に取り組む必要がある。

《主体的な学びを取り入れた授業を推進する》

◇主体的な学びを生徒は理解して、授業を受けているのか。(学校関係者評価委員による質問)

○生徒には夢や志をもつことで、主体的に学ぶことを伝えている。授業に、興味・関心をもたせるような発問やアクティブラーニングを取り入れることや、ICTを活用することを通して、主体的な学びにつながる学習活動となるよう、教職員研修を実施する。

《入学希望者の増加を目指す》

＜中学生へのPR活動の実施＞

◇HPIには、学校行事の様子をすぐに上げていただきたい。(学校関係者評価委員による意見)

○2学期には体育祭、文化祭、修学旅行などの大きな学校行事があるので、その様子をHPIに速やかにUPする。

学校関係者評価委員からは、さらなる飛躍を期待されており、全教職員一丸となって取り組みたい。

平成28年度学校関係者評価シート(中間評価)

平成28年10月25日

校番	81	学校名	広島工業高等学校	校長氏名	唐立 慎二	全日制	本校
----	----	-----	----------	------	-------	-----	----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・目標が適正に設定されている。 ・学校経営目標が5つの領域に区分され分かりやすくなっている。また、実績値、3ヶ月の目標値が示されている点がいい。
計画の進捗状況の評価の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・半期の実績であることを明示し、半期までの目標に対する評価ということがわかるようにして欲しかった。 ・目標が数値化され評価しやすい。
目標達成に向けた取組の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの再度見直しについては、年度当初からの計画性に乏しい。 ・新規目標である教職員の指導力の向上の推進について評価が低いということは、取組みの甘さ、教職員の意識が徹底されていないのではないか。
評価結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・よく分析されていると思う。
今後の改善方策の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・中間評価の段階で目標を達成できている領域があり、それについては、後半新たな目標設定をし、学校の活性化に図ってはどうか。未達成領域については課題が明確にされているので今後の取組に期待します。
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末の自己評価についてはA評価50%以上、C評価10%未満になるように取り組むことを期待している。